

中国金工史

中野 徹（元和泉市久保惣記念美術館館長） 著

本体価格 28,000 円 + 税

B5 判上製函入 本文 704 頁 挿図約 1,800 点 ISBN 978-4-8055-0737-7 C3071



本書は中国金工の歴史を通観しようと試みた一冊である。部分的な論考を別にする、中国金工の通史をまとめた書物はない。

《中略》

金工史はそうように重層的多面的な金属工芸の形式要素を読み解き、様式の流れを明らかにすることを目的とするべきである。しかし工芸史研究の歴史は浅く、いずれの分野も整理された学問にはなっていない。比較的早くにはじめられた中国陶磁の研究は、骨董的嗜好と考古学に誘導された観念から脱却していない面があり、玉器や漆器に関する研究もお部分的である。脆弱な基盤を整理して科学的な体系の構築をめざすべきであり、陶磁史・漆工史・玉工史・染織史などが体系的にまとめられるなら、やがて総括されて中国工芸史という分野が確立できるのではないだろうか。ここにした金工史の試みもその途上の一步になればよいと思う。

（「はじめに」より）

お取り扱い

中央公論美術出版

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-8-7

TEL 03-3561-5993 FAX 03-3561-5834

新石器時代から近世まで、中国の青銅器を中心とした造形芸術の原点である金属工芸の歴史を概観する、全編を書き下ろした学界初の通史。
半世紀におよぶ美術館学芸員の経験と蘊奥を活かし、通史の展覧会をイメージして構成した膨大な出土資料を多数掲載。詳細な「資料文献目録」を付す。

目次

はじめに

I

一 青銅器のはじまり

二 二里头文化の青銅器

三 商時代

四 西周時代

五 春秋時代（東周時代）

六 戦国時代（東周時代）

七 秦・漢時代

八 魏・晋・南北朝時代

九 隋・唐時代

十 近世―宋・元・明・清時代―

II

十一 埴漆・塗漆・彩色

十二 青銅鏡

十三 金銀器

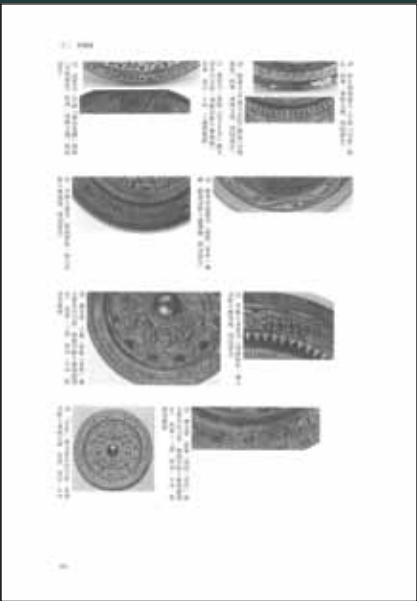
あとがき

主な著作・展覧会一覧

挿図出典一覧

資料文献目録

組見本（約三〇％縮小）



著者略歴

中野徹（なかの・とおる）

1941 年、大阪市西区生まれ（本籍三重県尾鷲市）。兵庫県立神戸高等学校、大阪府立大学農学部農学科、関西学院大学文学部美術科卒業。1971 年、関西学院大学大学院文学研究科博士課程修了。1969 年から大阪市立美術館学芸員、和泉市久保惣記念美術館学芸員・館長、財団法人黒川古文化研究所所長を歴任し、2006 年退職。

関連書籍

【茶道文化学術賞受賞】

東洋陶磁史研究

長谷部楽爾 著

本体価格 12,000 円 + 税

A5 判上製函入 本文 624 頁 挿図 167 点 SBN 978-4-8055-0534-2
2006 年 11 月

東西交流の陶磁史

西田宏子 著

本体価格 12,000 円 + 税

A5 判上製函入 本文 580 頁 挿図 408 点 ISBN 978-4-8055-0591-5
2008 年 11 月